

福島第一原子力発電所 1～4号機事故の収束に向けた対応状況の概要（12月28日～1月5日。①～⑤の項目の詳細は別紙表を参照）

⑤大気・土壌での放射性物質の抑制

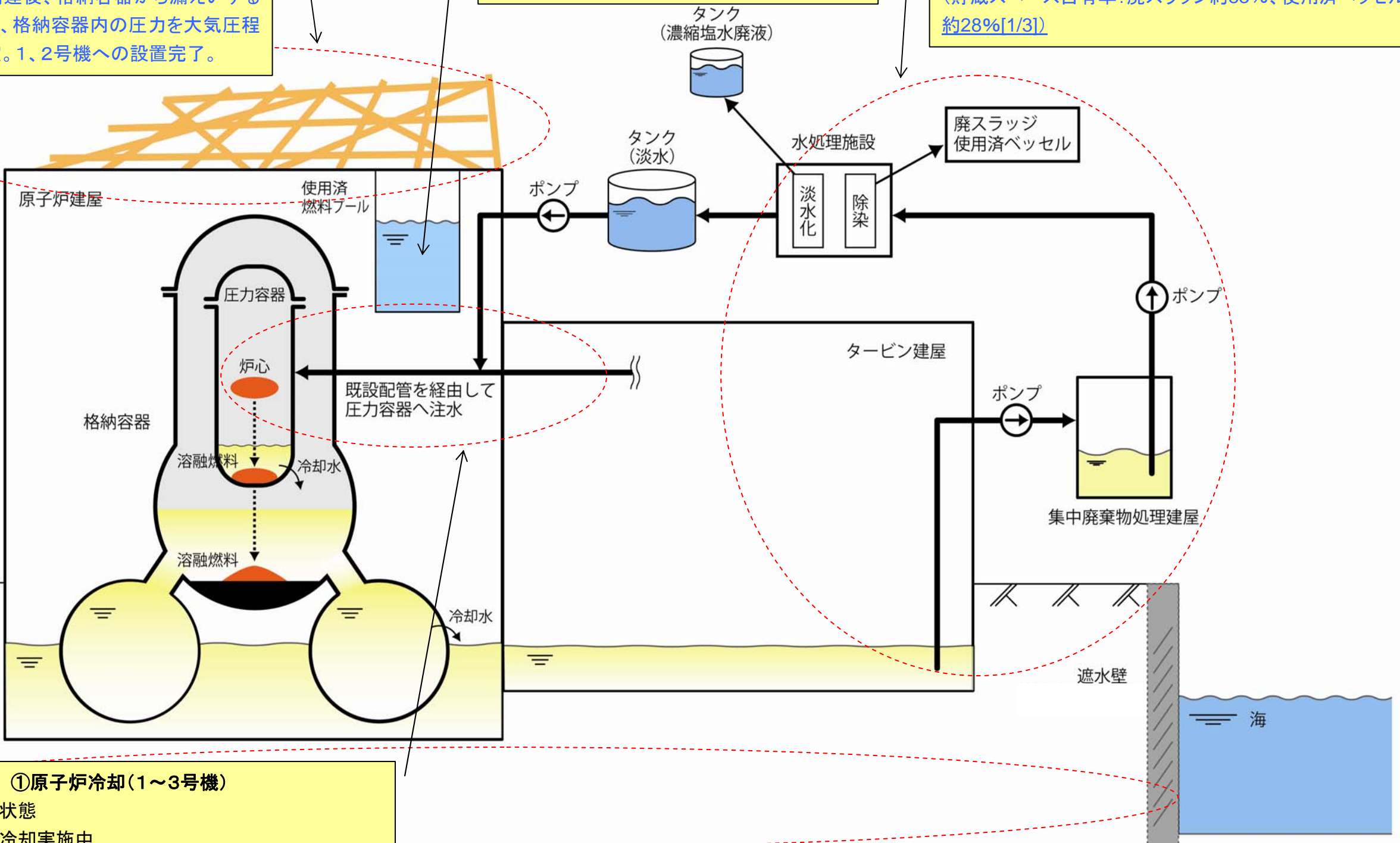
【目標】放射性物質の飛散抑制(達成済み)
 【現状】原子炉施設から大気中への放射性物質放出量は減少傾向(6月末と比べて約1/5)
 【至近の課題と動き】大きく損傷した原子炉建屋上部からの放射性物質の飛散抑制等のため、原子炉建屋カバー設置中(1号機完成 3、4号機設計中)
 圧力容器温度が概ね100℃以下に到達後、格納容器から漏れいする放射性物質の放出量を低減するため、格納容器内の圧力を大気圧程度にする装置を1～3号機に設置予定。1、2号機への設置完了。

②使用済燃料プール冷却(1～4号機)

【目標】より安定的な冷却(達成済み)
 【現状】熱交換器による循環冷却実施中。
 【至近の課題と動き】プール水に含まれる塩分除去を順次実施中[4号機8/20-]。2、3号機については、塩分除去に先立ちプール水の放射性物質除去を実施[2号機11/6-12/5]。

③滞留水

【目標】滞留水全体量の減少(達成済み)
 【現状】高レベル汚染水(約80,250m³[01/03])の処理実施中
 【至近の課題と動き】
 ・水処理施設の能力増強中。施設の効率的かつ安定運転が課題(除染装置稼働率(2系列):0%(停止)、約45% [12/27-1/3])
 ・水処理に伴い発生する放射性廃棄物の貯蔵施設増設中(貯蔵スペース占有率:廃スラッジ約83%、使用済ベッセル約28%[1/3])



①原子炉冷却(1～3号機)

【目標】冷温停止状態
 【現状】循環注水冷却実施中
 【至近の課題と動き】東京電力は、原子炉への注水停止から炉心の再損傷まで約19～20時間と評価[10/17現在]。安全性を高めるため、注水設備構成の更なる多様化を計画中。
 圧力容器内の水素濃度管理強化中[11/24-]

④地下水

【目標】海洋への汚染拡大防止(達成済み)
 【現状】地下水中の放射性物質濃度監視中
 【至近の課題と動き】海側地下水遮水壁工事開始[10/28-]

Main table containing detailed status reports for Fukushima Daiichi nuclear power plant units 1-4. It is organized into sections: ①原子炉冷却 (Nuclear Cooling), ②使用済燃料 (Spent Fuel), ③滞留水 (Retained Water), ④地下水 (Groundwater), ⑤大気・土壌抑制の放射性物質 (Air/Soil Radioactivity Control), and 補強ほか (Reinforcement etc.). Each section contains rows for '現状' (Current Status), 'STEP2(2011年7月~12月)目標' (Target), and '対策' (Countermeasures).

Informational text at the bottom of the page, including:
* 1 東京電力が解析、評価により推定[11/30発表]
* 2 東京電力は、1~4号機使用済燃料プール水の分析により、大部分の使用済み燃料が健全であることを確認
* 3 東京電力が、海洋への放出リスク及び地下水への漏えいリスクを低減させる観点から設定。
[情報源]
政府緊急対策本部発表 (http://www.kantei.go.jp/saigai/index.html)
原子力安全・保安院発表 (http://www.nisa.meti.go.jp)
東京電力発表 (http://www.tepco.co.jp/nu/index-j.html)
[重要度](原産協会の評価)
[対策の進捗状況]